

CASBEE 広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 (2010年.ver.1)

(仮称)藤和上機町マンション

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳				
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進							
1.1 建物の熱負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.10	Q1	室内環境	2	温熱環境	
住宅性能等級3と自主基準で床以外の壁・天井に熱橋補強を実施。	3.0	0.42	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制	
小計	3.0	0.37					
1.2 自然エネルギーの利用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	
全ての住戸を角住戸とし採光・通風を十分に確保できる計画とする。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	
					2.1	自然エネルギーの直接利用	
					2.2	自然エネルギーの変換利用	
小計	3.0	0.09					
1.3 設備システムの高効率化							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化	
設備システムの高効率化を計る為、エコキュートを採用した。							
小計	4.9	0.18					
1.4 設備システムの効率的運用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用	
	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用	
					4.1	モニタリング	
					4.2	運用管理体制	
小計	0.0	0.00					
1.5 資源・マテリアル対策							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	
極力節水用の給水器具を採用する。	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	
	3.0	0.03	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	
小計	3.5	0.26					
1.6 ライフサイクルCO2排出率							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.9	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮	
可能な限りCO2の排出を削減する。							
小計	4.9	0.11					
1. 「地球温暖化対策」の推進の評価							
	3.7	0.72					
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進							
2.1 温熱環境の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出	
オール電化とすることで燃焼機器をなくし、大気汚染物質を排出しない。又、極力敷地内の緑化に努める。	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	
					2.2	温熱環境悪化の改善	
小計	2.2	0.96					
2.2 交通負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	
狭小敷地内に出来る限りの駐車・駐輪スペースを設ける。又、車入庫時の渋滞緩和の為のスペースを設ける。					2.3	地域インフラへの負荷抑制	
小計	4.0	0.04				3	交通負荷抑制
2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価							
	2.3	0.15					
■ 3. 「長寿命化対策」の推進							
3.1 耐用性の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
コンクリート躯体の劣化については住宅性能上での等級3を確保する。又、内装材は耐久性・維持管理性に留意しメンテナンスが容易な材料を使用する。	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	
小計	3.5	0.47					
3.2 設備の更新性							
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
躯体に影響を及ぼさない範囲で設備のメンテナンス、更新が可能なレベルを確保する。	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	
小計	3.2	0.53					
3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)							
	3.3	0.13					
■ 重点項目の総平均(上記3項目)							
	3.4						